

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E111B003		発達と教育の心理学 (Developmental and Educational Psychology )														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
必修	2	1	教育学部			氏名 麻生良太、藤田敦 E-mail ryoaso@oita-u.ac.jp,a-fujita@oita-u.ac.jp 内線 7584,7614										
授業の概要	子どもの身体的、心理的発達の過程と障害、および、そこに関わる家庭環境、保育・教育環境の役割・影響について理解し、教育の現場における発達支援・学習支援の考え方について学ぶ。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 誕生から幼児、児童期を経て青年期に至るまで心身の発達と、家庭環境や教育環境の役割について説明することができる。																
目標2 子どもの成長と学習について、発達・教育心理学の観点から評価・分析し、具体的な支援を構想することができる。																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 発達と教育を結ぶ心理学(麻生・藤田)																
2 胎生期の発達と環境(麻生)																
3 からだと脳の発達(麻生)																
4 情動と動機付けの発達(麻生)																
5 自己の発達(麻生)																
6 言語の発達(麻生)																
7 認知の発達(麻生)																
8 人間関係の発達(麻生)																
9 社会性・道徳性の発達(麻生)																
10 心理的発達の過程における障害(麻生)																
11 学習理論1～行動の変容に注目する学習観(藤田)																
12 学習理論2～こころの内面に注目する理論(藤田)																
13 学習の動機付け1～学びのエネルギー(藤田)																
14 学習の動機付け2～学習行動の変容と動機付けの心理(藤田)																
15 学習の障害と教育(藤田)																
ラ イ ク ニ テ ン イ グ レ プ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	小課題や課題に関する小グループのディスカッションを実施し、課題意識を高め、多角的多面的に視野をひろげる。				工 夫 そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	現代の子どもの発達や学校教育における課題について関心を持ち、自分なりの考え(教育観、学習観、発達観)を整理しておく。(15h)														
	事後学修	発達や教育に関する自らの考えを、心理学的な視点を加えて再考する。(30h)														
教科書	教科書は使わない。適宜必要な資料を配付する。															
参考書	幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	期末試験(筆記試験)	70%														
	小課題、グループワーク等	30%														
注意事項	学びを深めるために、講義者から出される発問や課題に対して、積極的に取り組むこと。															
備考																
リンク	URL															